

農業散布 ドローン 自動飛行試験など紹介

第39回芝草勉強会を開催

日栄商事



北陸3県から約200人が参加した勉強会＝金沢

日栄商事（本社・金沢市、中村哲郎取締役社長）は23日、第39回芝草勉強会を金沢市の石川県地場産業振興センター本館大ホールで開催した。

勉強会には北陸3県からゴルフ場や公園、道路・河川といった緑地等の芝草の維持管理に携わる事業者約200人が参加。冒頭、中村社長が能

登半島地震および豪雨被害にあった被災者へのお見舞いの言葉を述べるとともに、今回の勉強会のプログラム内容について紹介後、「本日の勉強会が実り良きものとなり、今年が本格的な復旧・復興のスタートの年となることを心から願う」とあいさつした。

続いて講演に移り、日栄商事農事部技術普及課の石綿愛里沙氏が「ドローン試験報告とマツモグリカイガラムシについて」と題して講演。ゴルフ場における農業散布用ドローンによる自動飛行の試験結果について紹介した上でそのメリットや課題について説明。今回

使用したドローンは、機体に内蔵されたカメラで散布地点における飛行ルートを設定し自動散布するタイプ。1カ所目の試験では高度が高く風もあったことから散布地点で病斑が発生。一方、2カ所目は高度を下げて散布した結果、病斑はほとんど見られなかった。試験結果の総括としては「現状は散布可能な農薬が少なく、起伏に合わせて自動飛行できるが、バッテリー効率や測量の手間を考えると、現状の散布方法よりも実用的と言えない」と話し、広く普及するにはまだ課題があると指摘した。このほか、マツモグリカイガラムシの

病症や防除方法、薬剤なども紹介した。

続いて、ハクスバーナ・ゼノアGSP推進チームの花崎勇樹氏が「ロボット芝刈機による芝生管理」と題して講演。同社が累計350万台を製造販売し、世界トップシェアのロボット芝刈機「Automower（オートモア）」について紹介。芝が伸びる前に自動で刈ることによって刈り取った芝生を取り除く必要がないのが特徴と説明。バッテリー

ーがなくなりそうになるとチャージステーションに戻って充電し、充電が終わると再び動き出すことから、さまざまな緑地管理で省力化が図られると強調した。

続いてファイトクロームマーケティング部長の須藤修氏が「窒素固定菌製品の概要」、大信産業シニアアドバイザーで樹木医の村上幸弘氏が「街路樹および公園樹等の危険性について」と題し講演した。